

「応援します！！あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第73号 令和6年3月

福島市中町8番2号
発行元 公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

地域計画及び農地中間管理事業推進研修会 を開催しました

令和6年1月19日に、郡山市の福島県農業総合センター多目的ホールにおいて、福島県と当公社の主催により、「令和5年度地域計画及び農地中間管理事業推進研修会」を開催しました。

この研修会は、農地中間管理事業の重点推進期間の活動の一環として、本県の地域計画の策定の推進や農地中間管理事業の普及啓発と理解促進を図ることを目的としたもので、市町村や関係団体等の担当者約130名の参加を頂きました。

はじめに、基調講演として「地域計画に基づくこれからの農村振興について」と題し、東北大学大学院農学研究科教授の伊藤房雄氏

より、地域計画の策定に取り組むときの留意点やこれからの地域農業の姿とその実現に向けた課題などを中心にご講演を頂きました。

また、事例発表では、「地域運営組織による農業を起点とした地域づくり」をテーマに、見祢(みね)結乃村(ゆいのむら)未来協議会事務局局長兼農事組合法人結乃村農楽団事務局長の小坂橋敏弘氏より、見祢集落・結乃村の先進的な取組事例や地域づくりにおける具体的な手法などについて、発表を頂きました。

今後も市町村や関係団体等と連携し、農地中間管理事業のさらなる推進に努めてまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。



(伊藤房雄東北大学大学院教授による基調講演)

南東北三県農地中間管理機構情報交換会 を開催しました

令和6年2月9日に、令和5年度南東北三県農地中間管理機構情報交換会を開催しました。この会議は、毎年1回、宮城県、山形県、福島県の南東北三県の農地中間管理機構職員が一堂に会し、農地中間管理事業に係る各種事務手続きの方法や、日ごろ農地貸借の契約事務を行う中で発生する様々な課題への対応状況等の実務的な内容について情報交換を行うことを目的として実施しているもので、今年度は、当県での開催となりました。

令和4年の法改正により、今後、農地中間管理事業での取扱い契約件数の増加が見込まれることに加え、当事業の開始当初に契約した案件が一斉に期間満了の時期を迎え、多くの契約更新手続きが発生することから、各県機構においては、事務量の増大に対応するた

めの体制強化や機構はもとより市町村等の事務負担軽減及び効率化のためのシステム化等を速やかに構築することが喫緊の課題となっています。

また、年々契約件数が増加するにつれて、耕作者による賃料の滞納、さらに、所有者の死亡による機構からの賃料支払い不能案件も増加しており、これらへの対応も当事業の実施において大きなウェイトを占める業務の一つになってきております。

これらの課題については、この情報交換会で得られた新たな知見や他県が既に実践している取組を参考にしながら、今後も引き続き課題解決に向けて検討を進めていきたいと考えております。



(開催県である福島県機構よりあいさつ)

農地バンクの現場から

福島県農地中間管理機構 飯舘村駐在 市町村コーディネーター 八巻 吉邦

令和5年4月から市町村コーディネーターとして飯舘村に駐在し、農地中間管理事業の推進に取り組んでいます。

飯舘村では、住民の村外避難に伴う話し合いの機会の減少など、被災地域特有の課題を抱えながらも、令和元年より地区内の畜産農家など規模拡大に意欲的な担い手へ、農地中間管理事業を活用した農地の集積を進めてきました。

令和5年度の農地中間管理事業の活用実績は8行政区で107ha、累計では11行政区で512haとなり、農地中間管理事業を活用した営農再開が進んでおります。

今後も各行政区や関係機関と連携しながら、

農地中間管理事業の積極的な推進を図るとともに、地域計画の話し合いへの参加などを通じ、農地の集積、営農再開の拡大に向けて取り組んでまいりたいと思います。



(契約手続きの説明をする八巻コーディネーター)

福島県農業経営・就農支援センター開所記念 『ふくしま農業人育成セミナー』

令和6年2月9日に郡山市のユラックス熱海で、「ふくしま農業人育成セミナー」を開催しました。



(JA五連福島 管野会長のあいさつ)

当社の就農支援センターが事務局機能を担う「福島県農業経営・就農支援センター」は、県と3つの農業関係団体がワンフロアに常駐する福島ならではの相談窓口として今年度から発足しており、本セミナーは福島県農業経営・就農支援センター開所記念として、本県農業のさらなる発展を目指し、関係者の担い手育成の意識醸成を図るため、『地域で育てる、みんなで支える新規就農者』と題して、市町村、JAなどの関係団体、先輩農業者、指導農業士を中心とした約160名の参加の下、開催したものです。



(基調講演)

セミナーは、基調講演とパネルディスカッションが行われ、基調講演では、独自の新規就農者受入体制を整備している茨城県石岡市JAやさと営農流通部の高橋大販売拡大課長をお招きし、地域ぐるみで行われている新規就農者受け入れについて講話をしていただきました。



(パネルディスカッション)

また、パネルディスカッションでは、コーディネーターとして福島大学の原田英美教授、パネリストとして桑折町産業振興課の遠藤徳昭主任主査、JA福島さくらたむら統括センターの佐藤耕司営農課長、南相馬市花き農家の菊地沙奈氏が登壇し、『地域で育てる、みんなで支える新規就農者』をテーマに、行政・JA・新規就農者の立場から取組事例等について議論していただきました。

参加者のアンケート調査では、多くの皆様から、『新規就農者の確保と育成、そして産地の維持・発展』という各地域の大きな課題に向けて新たな視点や学びを得る有意義なセミナーになったとの回答をいただきました。

『確立した自分の営農スタイル』

私は、昔から食に関わることが好きでした。自分で生産した野菜、地元の農家さんが生産した野菜で、地元いわき市を盛り上げる。その思いから農家になることを志して令和3年4月に研修を開始しました。

農業次世代人材投資資金（準備型）を活用し、いわき市の野菜農家の元で2年間の研修を行いました。右も左も分からないまま研修に飛び込んだ私は、最初の1年目で「農業」について初めて理解しました。栽培周期や1つ1つの作業の意味など言われたことをこなしていく日々で、研修と並行してアルバイトもしていたので正直とても大変でした。そして、2年目はアルバイトを減らし「自分で動く」ことを意識しました。研修先からは「野菜を売れないんだから顔を売れ」とのアドバイスをもらい、マルシェや販売イベント等に積極的に顔を出して自分を知ってもらったほか、就農予定時期から逆算して農地や機械、就農計画の作成も進めていきました。農業経営をしていくためには、前のシーズンからのきちんとした計画が必要であることを改めて実感しました。

この2年間は「休む」という概念をなくしたため、肉体的にも精神的にもハードでしたが、農作業が楽しかったことや自分を知ってもらったことなどで辞めたいとは思いませんでした。

そのため、令和5年4月に独立し、BUNFARM（ブンファーム）という屋号をつけて、認定新規就農者となりました。

就農品目は露地野菜を中心に30aの規模で15品目を栽培しました。独立して、いつ休むか何をするかなど自分で決められる自由さ、最初に栽培した野菜が全滅する厳しさなどを実感し、それに対応しなきゃいけないことに悩む時もありましたが、初めて自分で作った野菜を販売した時の嬉しさ、消費者と自身の野菜について話し合った上で購入してもらえたときの感動や喜びは忘れられません。

さらに、SNSを通じて自身の栽培した野菜を楽しむに待ってくださっている方、野菜を調理した写真を掲載してくれる方々を見ると、“やりがい”や“農家であることに誇り”を感じる事が出来



いわき市 鈴木文香

ます。

来年度以降は、今のスタイルで品目と生産量を増やし、さらに自身のレベルアップをしていくとともに、常に消費者目線で魅力を発信していけるような新しいロールモデルになりたいです。

そして、新たにいわき市で農業をやりたいと思って参入する方に対し、地元に着目した農業ができる環境を作っていけるようになりたいです。

編集後記

季節は春。桜が開花したというニュースもそろそろ聞こえてくるころでしょうか。

気象庁では、生物季節観測を行っていて、おなじみは何といっても春の「さくら」ですが、このほかにも、「うめ」、「あじさい」や「すすき」の開花、また、「かえで」の紅葉などについても観測をしているそうです。

慌ただしく毎日を過ごしていると、あっという間に季節は変化していきますが、今年は、すすきの開花にも気づけるよう、季節を感じつつ過ごし

たいと思います。

ちなみに、昨年、福島では、8月14日が開花日となっておりますが、まずは、すすきの花ってどこの部分なのかを調べるところからはじめたいと思います。
(今野 舜)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8階

公益財団法人福島県農業振興公社 総務企画課

TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277

URL <https://www.fnk.or.jp>